

令和6年度 事業計画・当初予算 概要

1. 法 人 全 体 P 1～P 2
2. お お す か 苑 拠 点 P 3～P 8
3. 山 崎 ティーサービスセンター拠点 P 9～P 10
4. 地 域 密 着 サ ー ビ ス 拠 点 P 11～P 13
5. よこすか めく森こども園拠点 P 14～P 15
6. おおぶち そよ風こども園拠点 P 16～P 17

社会福祉法人 大須賀苑

資金収支当初予算書

令和 6 年 4 月 1 日

(単位：円)

勘 定 科 目		当初予算額	前年度予算額	増 減	
事業活動による収支	収 入	0165 介護保険事業収入	692,008,000	657,617,000	34,391,000
		0181 保育事業収入	280,166,000	288,290,000	-8,124,000
		0198 借入金利息補助金収入	620,000	1,458,000	-838,000
		0199 経常経費寄附金収入	2,000	2,000	0
		0200 受取利息配当金収入	696,000	777,000	-81,000
		0201 その他の収入	4,170,000	4,581,000	-411,000
		事業活動収入計(1)	977,662,000	952,725,000	24,937,000
	支 出	0129 人件費支出	689,930,000	651,156,000	38,774,000
		0130 事業費支出	138,410,000	140,982,000	-2,572,000
		0131 事務費支出	143,582,000	163,256,000	-19,674,000
		0136 利用者負担軽減額	2,215,000	2,873,000	-658,000
		0137 支払利息支出	1,735,000	2,579,000	-844,000
		0138 その他の支出	3,555,000	3,555,000	0
		事業活動支出計(2)	979,427,000	964,401,000	15,026,000
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		-1,765,000	-11,676,000	9,911,000
施設整備等による収支	収 入	0204 施設整備等補助金収入	31,000,000	45,330,000	-14,330,000
		施設整備等収入計(4)	31,000,000	45,330,000	-14,330,000
	支 出	0143 設備資金借入金元金償還支出	51,400,000	65,730,000	-14,330,000
		0144 固定資産取得支出	14,150,000	4,716,000	9,434,000
		0146 ファイナンス・リース債務の返済支出	7,522,000	7,634,000	-112,000
	施設整備等支出計(5)	73,072,000	78,080,000	-5,008,000	
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		-42,072,000	-32,750,000	-9,322,000	
その他の活動による収支	収 入	0214 積立資産取崩収入	507,000	1,880,000	-1,373,000
		その他の活動による収入計(7)	507,000	1,880,000	-1,373,000
	支 出	0152 積立資産支出	2,084,000	32,029,000	-29,945,000
	その他の活動支出計(8)	2,084,000	32,029,000	-29,945,000	
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		-1,577,000	-30,149,000	28,572,000	
予備費支出(10)		0	0	0	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		-45,414,000	-74,575,000	29,161,000	
前期末支払資金残高(12)		218,538,872	293,113,872	-74,575,000	
当期末支払資金残高(11)+(12)		173,124,872	218,538,872	-45,414,000	

【社会福祉法人 大須賀苑】

法 人 名	社会福祉法人 大須賀苑		
所 在 地	〒437-1302 掛川市大渕 4895 番地	TEL 0537-48-5365	
代 表 者	理事長 青野 容幸		
設立認可年月日	平成3年10月 5日		
法人登記年月日	平成3年10月17日		
法 人 番 号	3080405004701		
理 事	6名	任期;令和5年6月～令和7年6月	
監 事	2名	任期;令和5年6月～令和7年6月	
評 議 員	7名	任期;令和3年6月～令和7年6月	
法人の基本理念	利用者一人一人がその人らしく 自立した生活を営むことができるように支えることを目指す		
事 業 内 容	第一種社会福祉事業 特別養護老人ホームの経営 第二種社会福祉事業 老人デイサービス事業の経営 老人短期入所事業の経営 幼保連携型認定こども園の経営 地域子育て支援拠点事業の経営 一時預かり事業の経営 認知症対応型老人共同生活援助事業の経営 小規模多機能型居宅介護事業の経営 公益事業 居宅介護支援事業 包括支援センター		
運 営 施 設	【高齢者福祉事業部】 特別養護老人ホームおおすか苑（従来型） 定員 50名 特別養護老人ホームおおすか苑（ユニット型） 定員 30名 おおすか苑ショートステイ 定員 20名 おおすか苑デイサービスセンターほほえみ 定員 30名 おおすか苑居宅介護支援事業所 掛川市南部大須賀地域包括支援センター 山崎デイサービスセンター 定員 25名 小規模多機能型居宅介護よりみち 定員 25名 グループホーム野楽里 定員 18名 【児童福祉事業部】 よこすか めく森こども園 定員230名 おおぶち そよ風こども園 定員120名 一時預かり事業所 子育て支援センターはじめのいっぽ		
職 員 数 (令和6年4月1日現在)	法人全体 142名 (高齢者福祉事業部 92名)(児童福祉事業部 50名)		

おおすか苑拠点区分 資金収支当初予算書

令和 6年 4月 1日

(単位:円)

勘 定 科 目		当初予算額	前年度予算額	増 減	
事業活動による収支	収 入	0165 介護保険事業収入	528,839,000	511,373,000	17,466,000
		0198 借入金利息補助金収入	0	215,000	-215,000
		0199 経常経費寄附金収入	2,000	2,000	0
		0200 受取利息配当金収入	627,000	727,000	-100,000
		0201 その他の収入	430,000	861,000	-431,000
		事業活動収入計(1)	529,898,000	513,178,000	16,720,000
	支 出	0129 人件費支出	364,052,000	329,774,000	34,278,000
		0130 事業費支出	80,436,000	82,180,000	-1,744,000
		0131 事務費支出	78,706,000	83,676,000	-4,970,000
		0136 利用者負担軽減額	2,205,000	2,598,000	-393,000
		0137 支払利息支出	200,000	415,000	-215,000
		事業活動支出計(2)	525,599,000	498,643,000	26,956,000
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		4,299,000	14,535,000	-10,236,000
施設整備等による収支	収 入	0204 施設整備等補助金収入	0	14,330,000	-14,330,000
		施設整備等収入計(4)	0	14,330,000	-14,330,000
	支 出	0143 設備資金借入金元金償還支出	6,400,000	20,730,000	-14,330,000
		0144 固定資産取得支出	12,850,000	2,067,000	10,783,000
		0146 ファイナンス・リース債務の返済支出	6,662,000	6,774,000	-112,000
		施設整備等支出計(5)	25,912,000	29,571,000	-3,659,000
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		-25,912,000	-15,241,000	-10,671,000	
その他の活動による収支	収 入	0214 積立資産取崩収入	3,000	98,000	-95,000
		0223 サービス区分間繰入金収入	7,700,000	955,000	6,745,000
		その他の活動による収入計(7)	7,703,000	1,053,000	6,650,000
	支 出	0152 積立資産支出	970,000	30,915,000	-29,945,000
		0160 拠点区分間繰入金支出	0	16,000,000	-16,000,000
		0161 サービス区分間繰入金支出	7,700,000	955,000	6,745,000
		その他の活動支出計(8)	8,670,000	47,870,000	-39,200,000
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		-967,000	-46,817,000	45,850,000	
予備費支出(10)		0	0	0	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		-22,580,000	-47,523,000	24,943,000	
前期末支払資金残高(12)		148,330,821	195,853,821	-47,523,000	
当期末支払資金残高(11)+(12)		125,750,821	148,330,821	-22,580,000	

1. 今年度の目標：その人らしく安全で快適な生活を送れるように援助する
2. 目標に対する具体的な取り組み
 - (1) 入居者の生活の質の向上を目指し、その人らしい生活を作る。
 - (2) 職員の専門性・ケアの質の向上に取り組む
 - (3) 安心・安全な生活環境を整備する
 - (4) 職員の定着：面接を実施し組織の内容伝達・意向等の確認をする。
3. 活動・行事：活動・行事は、生活のアクセントとして、心から楽しめるものの提供に努めるとともに、利用者一人ひとりの身体機能の低下を防ぎ、生活意欲の維持向上を目的に実施する。
4. 利用者の健康管理

〈特養(従来型)〉 日常の体温等のチェック、健康診断の実施をとおり、嘱託医師の診療業務のもと疾病の早期発見に努め、入居者の健康管理を行う。また、感染症等のまん延を防ぐため、予防接種を行う。

〈ショートステイ〉 居宅ケアプラン及び家族・ケアマネジャーから得る診療・内服薬等の情報に基づき健康管理を行う。
5. 防災活動：火災などの災害から入所者（利用者）・職員等の生命保護及び財産を守るために、防災規程に基づき防災活動を行う。
6. 職員研修計画：介護従事者として施設で仕事をするうえで求められる知識の習得と個々のレベルアップとチームとして質の高い介護サービスの提供ができることを目指し、内部研修を開催実施し、外部研修への職員派遣も行う。
7. 会議、委員会：施設福祉課会議（毎月第1火曜日）、給食会議（月1回）開催。

委員会は「身体拘束廃止・虐待防止」「医療的ケア安全対策委」「褥瘡対策」「安全管理」「排せつ」「ケア向上」「行事」の委員会を設置し活動する。
8. 優先入所：優先入所検討委員会を設置して年6回の定例委員会を開催し、入所申込者名簿の作成と、優先入所順位名簿の作成及び入所の決定を行う。
9. 地域との交流：地域行事への参加協力、学生の介護体験及び芸能慰問・シーツ交換といったボランティア活動の受け入れを行う。ただし、新型コロナウイルス等の感染状況により、判断をしていく。

1. 今年度の目標：その人らしく安全で快適な生活を送れるように援助する
2. 目標に対する具体的な取り組み
 - (1) 入居者の生活の質の向上を目指し、その人らしい生活を作る。
 - (2) 職員の専門性・ケアの質の向上に取り組む
 - (3) 安心・安全な生活環境を整備する
 - (4) 職員の確保：面接を実施し組織の内容伝達・意向等の確認をする。
3. 活動・行事：活動・行事は、生活のアクセントとして、心から楽しめるものの提供に努めるとともに、利用者一人ひとりの身体機能の低下を防ぎ、生活意欲の維持向上を目的に実施する。
4. 利用者の健康管理

日常の体温等のチェック、健康診断の実施をとおり、嘱託医師の診療業務のもと疾病の早期発見に努め、入居者の健康管理を行う。また、感染症等のまん延を防ぐため、予防接種を行う。
5. 防災活動：火災などの災害から入所者（利用者）・職員等の生命保護及び財産を守るために、防災規程に基づき防災活動を行う。
6. 職員研修計画：介護従事者として施設で仕事をするうえで求められる知識の習得と個々のレベルアップとチームとして質の高い介護サービスの提供ができることを目指し、内部研修を開催実施し、外部研修への職員派遣も行う。
7. 会議、委員会：施設福祉課会議（毎月第1火曜日）、給食会議（月1回）開催。

委員会は「身体拘束廃止・虐待防止」「医療的ケア安全対策委」「褥瘡対策」「安全管理」「排せつ」「ケア向上」「行事」の委員会を設置し活動する。
8. 優先入所：優先入所検討委員会を設置して年6回の定例委員会を開催し、入所申込者名簿の作成と、優先入所順位名簿の作成及び入所の決定を行う。
9. 地域との交流：地域行事への参加協力、学生の介護体験及び芸能慰問・シーツ交換といったボランティア活動の受け入れを行う。ただし、新型コロナウイルス等の感染状況により、判断をしていく。

1. 今年度の重点目標

- ①「目標：1日平均利用者数 平日 16名以上、土曜日 10名以上」
- ②「この地域で暮らす高齢者に必要とされる在宅介護サービス提供のため、在宅福祉課で協働し、デイサービスの再構築を図る」
- ③「地域に根ざした社会福祉事業者として、地域住民や地区組織とのつながりを深める」

【具体的な取り組み】

- ・地域の在宅高齢者に必要とされるサービスを提供するため、7月を目途に山崎デイサービスとの差別化を図り、当法人の通所介護事業として幅広いニーズへ対応できるサービス内容に変更する。体制を整えるため在宅福祉課各事業所で協働し準備する。現利用者への説明対応、環境整備、職員の指導教育、外部へのPRを計画的に進める。
- ・効果的効率的にサービス提供ができるよう、リハビリ専門職起用や業務IT化を視野に入れた改変を進める。必要ならば設備投資を検討する。
- ・相談員は包括支援センターや居宅介護事業所等と日頃から良好なつながりを保ち、情報の共有や取得に努める。
- ・管理者は、常に事業運営状況の確認をする。法令を遵守し、運営基準や要件を満たしたサービス提供を行う。
- ・地域に根ざした社会福祉施設として、積極的に地域とつながる機会を作る。介護等の相談窓口や情報発信基地となり、地域貢献と事業継続につなげる。

2. 事業内容

利用者・家族の意向及び居宅サービス計画に基づき、通所介護計画を作成し、以下のサービスを提供する。

- ①食事サービス ②入浴サービス ③健康管理 ④送迎サービス ⑤介護相談
⑥活動（レクリエーション等） ⑦運動・体操・機能訓練 ⑧定期的なケアの見直し

3. 職員研修・会議

各職員が個別に目標を立て、目標達成の実現に有効と思われる研修や会議への参加で知識の取得、スキルアップに努める。

事業継続計画（BCP）

管理者は職員に事業継続計画（BCP）を周知させ、平時より計画に沿って事業を行っていく。BCPや対応マニュアルは、随時、実用に適したものに見直し、更新していく。

4. 営業日及び営業時間等

営業日 月曜日～土曜日（但し12/31～1/3は休み）

営業時間 8:00～17:00 定員（平日）30名（土曜）20名

※サービス提供時間は 9:15～16:15（7～8時間）

※時間外利用：家族の都合に応じて8:00から、17:00まで受け入れる。

1. 今年度の重点目標

- ①「利用者一人一人が能力を生かしながら在宅生活を継続できるように、関係者の連携を図りながら支援する」
- ②「この地域で暮らす高齢者に必要とされる在宅介護サービス事業を提供していくため、在宅福祉課で協働する」
- ③「地域に根ざした社会福祉事業者として、地域住民や地区組織とのつながりを深める」

2. 活動内容

【居宅介護支援】 要介護者一人一人が住みなれた自宅で尊厳ある生活ができるように、利用者の心身の状態や家族状況、居住環境、意向などから生活全般の課題(ニーズ)を把握し、個別の居宅サービス計画を作成する。

【給付管理】 要介護状態区分によって定められている支給限度基準額を確認し、適切な量や単位のサービス調整をする。毎月、各サービス提供事業所の実績を確認して、給付管理票を作成する。

【要介護認定等に係る申請の援助】

【相談業務】 利用者及び家族の不安や悩みを受け止め、専門性を生かした助言や指導で、問題の解決に向けた支援をする。

【受託業務】 掛川市からの委託を受け、依頼があった場合には要介護認定調査を行う。
地域包括支援センターからの委託を受け、介護予防支援・介護予防 ケアマネジメントを行う。

【介護支援専門員実務研修実習受け入れ】

3. 職員研修、会議

各介護支援専門員が個別に業務目標や研修目標を立てる。目標達成の実現に有効と思われる研修や会議への参加で知識の取得、スキルアップに努める。

BCP・対応マニュアルに従って内部研修や訓練、会議を計画的に実施する。

事業継続計画（BCP）

管理者は職員に事業継続計画（BCP）を周知させ、平時より計画に沿って事業を行っていく。BCP や対応マニュアルは、随時、実用に適したものに見直し、更新していく。

4. 営業日および営業時間等

営業日 月曜日～土曜日（但し 12月31日～1月3日は休み）

営業時間 8：00 ～ 17：00

夜間対応 電話転送にて、営業時間外においても常に対応できる体制を確保

【掛川市南部大須賀地域包括支援センター】

1	担当圏域	大須賀地区 人口 10,321 人 ※R5.4月末現在 高齢者人口 3,611 人 高齢化率 34.99%
2	職員体制	主任介護支援専門員1名・看護師1名・社会福祉士2名（1名は兼務）
3	センターの方針	・多様化、複雑化した相談に対応するため、専門職として必要な知識やスキルの習得、研鑽に努める。各種関係機関や地域組織とのチームアプローチ実践のため、普段から良好なつながりや関係づくりに努める。 ・地域包括ケアシステム構築のため、地域の住民や団体、企業などへの啓発活動や、医療、介護、認知症、権利擁護などについての各種講座開催等、推進活動に積極的に取り組む。 ・関係各所との連携、さらに地域のインフォーマルサービスやボランティアを活用し、通いの場など求められている資源の開発に取り組む。また、今ある居場所や通いの場の継続、展開のため、地域への支援をしていく。 ・認知症への理解を深める普及、啓発活動を積極的に行う。
4	事業別の実施内容	【1】 総合相談支援業務 ①実態把握：訪問や地区活動または関係機関からの情報に基づき、高齢者の生活全般について実態把握を行う。 ②総合相談：複雑かつ多様化しつつある相談内容を的確に把握、判断する。各種専門性を生かした検討と速やかな初期対応を行い、有効かつ適切なサービスまたは支援策へつなぐ。 【2】 権利擁護業務 ①高齢者虐待の早期発見、早期介入 ②成年後見制度等の利用支援 ③消費者被害への相談支援 【3】 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務 高齢者の心身の状況等の変化に応じ、病院・施設・在宅を通じた包括的・継続的なケアを実施するため、関係機関で目標を共有しチームアプローチの視点を持てる体制の構築に努める。 【4】 介護予防ケアマネジメント業務・指定介護予防支援 【5】 地域におけるネットワーク活動の展開 ①地域の見守り活動の周知・拡大 ②地域の社会資源の掘り起こしと活用 【6】 認知症に関する取り組み ①認知症への理解を深める普及・啓発 ②認知症高齢者やその家族に対する支援 ③認知症疾患センターとの連携 ④認知症初期集中支援チームの業務 【7】 生活支援体制整備事業に関する取り組み 地域住民への勉強会や講座の開催。ボランティア活動への参加啓発や、新たな協力者の発掘など、地域での担い手づくりをすすめる。地域の社会福祉法人やサービス事業所とネットワークを構築し、通いの場の活用および展開をすすめる。 【8】 地域ケア会議の開催 個別の課題解決を図りながら、地域としての課題抽出にも努める。課題内容についてのさらなる情報収集や分析を行い、課題解決への取り組みを協議する。 【9】 在宅医療・介護連携推進事業に関する業務 医療と介護の両立を必要とする高齢者が、人生の最期まで住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう支援する。在宅医療と介護等のサービスを包括的に提供するため、医療機関と介護サービス事業所などとの連携を推進する。

山崎デイサービスセンター拠点区分 資金収支当初予算書

令和 6年 4月 1日

(単位: 円)

		勘 定 科 目	当初予算額	前年度予算額	増 減
事業活動による収支	収入	0165 介護保険事業収入	34,270,000	31,323,000	2,947,000
		0201 その他の収入	10,000	10,000	0
		事業活動収入計(1)	34,280,000	31,333,000	2,947,000
	支出	0129 人件費支出	23,701,000	24,509,000	-808,000
		0130 事業費支出	6,188,000	6,546,000	-358,000
		0131 事務費支出	4,123,000	4,902,000	-779,000
		0136 利用者負担軽減額	10,000	35,000	-25,000
		事業活動支出計(2)	34,022,000	35,992,000	-1,970,000
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	258,000	-4,659,000	4,917,000	
施設整備等による収支	収入				
		施設整備等収入計(4)	0	0	0
	支出	0144 固定資産取得支出	0	441,000	-441,000
		0146 ファイナンス・リース債務の返済支出	190,000	190,000	0
	施設整備等支出計(5)	190,000	631,000	-441,000	
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	-190,000	-631,000	441,000	
その他の活動による収支	収入	0214 積立資産取崩収入	1,000	1,000	0
		0222 拠点区分間繰入金収入	0	4,000,000	-4,000,000
		その他の活動による収入計(7)	1,000	4,001,000	-4,000,000
	支出	0152 積立資産支出	69,000	69,000	0
	その他の活動支出計(8)	69,000	69,000	0	
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	-68,000	3,932,000	-4,000,000	
予備費支出(10)			0	0	0
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)			0	-1,358,000	1,358,000
前期末支払資金残高(12)			2,155,792	3,513,792	-1,358,000
当期末支払資金残高(11)+(12)			2,155,792	2,155,792	0

1. 今年度の重点目標

- ①「目標：1日平均利用者数 13名以上」
- ②「この地域で暮らす高齢者に必要とされる在宅介護サービス提供のため、在宅福祉課で協働し、デイサービスの再構築を図る」
- ③「地域に根ざした社会福祉事業者として、地域住民や地区組織とのつながりを深める」

【具体的な取り組み】

- ・地域の在宅高齢者に必要とされるサービスを提供するため、7月を目途にデイサービスほほえみとの差別化を図り、当法人の通所介護事業として幅広いニーズへ対応できるサービス内容に変更する。体制を整えるため在宅福祉課各事業所で協働し準備する。現利用者への説明対応、環境整備、職員の指導教育、外部へのPRを計画的に進める。
- ・効果的効率的にサービス提供ができるよう、リハビリ専門職起用や業務IT化、提供時間変更を視野に入れた改変を進める。必要ならば設備投資を検討する。
- ・相談員は包括支援センターや居宅介護事業所等と日頃から良好なつながりを保ち、情報の共有や取得に努める。
- ・管理者は、常に事業運営状況の確認をする。法令を遵守し、運営基準や要件を満たしたサービス提供を行う。
- ・地域に根ざした社会福祉施設として、積極的に地域とつながる機会を作る。介護等の相談窓口や情報発信基地となり、地域貢献と事業継続につなげる。

2. 事業内容

利用者・家族の意向及び居宅サービス計画に基づき、通所介護計画を作成し、以下のサービスを提供する。

- ①食事サービス ②入浴サービス ③健康管理 ④送迎サービス ⑤介護相談
⑥活動（レクリエーション等） ⑦運動・体操・機能訓練 ⑧定期的なケアの見直し

3. 職員研修・会議

各職員が個別に目標を立て、目標達成の実現に有効と思われる研修や会議への参加で知識の取得、スキルアップに努める。

事業継続計画（BCP）

管理者は職員に事業継続計画（BCP）を周知させ、平時より計画に沿って事業を行っていく。BCPや対応マニュアルは、随時、実用に適したものに見直し、更新していく。

4. 営業日及び営業時間等

営業日 月曜日～金曜日（但し12/31～1/3は休み） 定員 25名

営業時間 8:00～17:00

※サービス提供時間は 9:15～16:15（7～8時間）

※時間外利用：家族の都合に応じて8:00から、17:00まで受け入れる。

地域密着サービス拠点区分 資金収支当初予算書

令和 6年 4月 1日

(単位:円)

勘 定 科 目			当初予算額	前年度予算額	増 減
事業活動による収支	収入	0165 介護保険事業収入	128,899,000	114,921,000	13,978,000
		事業活動収入計(1)	128,899,000	114,921,000	13,978,000
	支出	0129 人件費支出	91,700,000	94,626,000	-2,926,000
		0130 事業費支出	20,042,000	19,199,000	843,000
		0131 事務費支出	9,553,000	10,855,000	-1,302,000
		0136 利用者負担軽減額	0	240,000	-240,000
		0137 支払利息支出	915,000	920,000	-5,000
		0138 その他の支出	5,000	5,000	0
		事業活動支出計(2)	122,215,000	125,845,000	-3,630,000
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		6,684,000	-10,924,000	17,608,000	
施設整備等による収支	収入	施設整備等収入計(4)	0	0	0
		0143 設備資金借入金元金償還支出	14,000,000	14,000,000	0
	支出	0144 固定資産取得支出	0	153,000	-153,000
		0146 ファイナンス・リース債務の返済支出	670,000	670,000	0
	出	施設整備等支出計(5)	14,670,000	14,823,000	-153,000
		施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	-14,670,000	-14,823,000	153,000
その他の活動による収支	収入	0214 積立資産取崩収入	2,000	547,000	-545,000
		0222 拠点区分間繰入金収入	0	12,000,000	-12,000,000
		0223 サービス区分間繰入金収入	5,900,000	0	5,900,000
		その他の活動による収入計(7)	5,902,000	12,547,000	-6,645,000
	支出	0152 積立資産支出	327,000	327,000	0
		0161 サービス区分間繰入金支出	5,900,000	0	5,900,000
		その他の活動支出計(8)	6,227,000	327,000	5,900,000
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		-325,000	12,220,000	-12,545,000
	予備費支出(10)		0	0	0
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		-8,311,000	-13,527,000	5,216,000	
前期末支払資金残高(12)			15,600,556	29,127,556	-13,527,000
当期末支払資金残高(11)+(12)			7,289,556	15,600,556	-8,311,000

1. 事業所の重点目標

〔事業目標〕

月平均登録人数15名(登録率60%)を目指す

＜具体的な取り組み＞

- ・地域包括支援センター及び近隣の医療機関への情報提供は継続する。
- ・地域の集まりや民生委員への集まりに出向きPRを行ったり、居宅介護支援事業所への情報提供をするなど営業活動を強化する。

〔処遇目標〕

利用者一人一人に対して統一した方向性のもと適切なケアを提供する。

＜具体的な取り組み＞

- ・ケア記録に利用者の変化など気づいた点などを記載することで、評価(モニタリング)に反映させる。
- ・一日1回ミーティングを開催し、日々の気づきやケアの方法など職員間で情報共有をする。

2. サービス内容

居宅サービス計画書に基づき、以下のサービスを提供する。

- 1) 個別サービス計画
- 2) 地域との交流
- 3) 通い支援
- 4) 訪問支援
- 5) 宿泊支援
- 6) 介護相談

3. 運営推進会議

地域や関係機関等に事業所の運営について理解を図り、外部との情報交換を図ることでサービスの質を確保する。

〔構成員〕 利用者家族代表、地域住民代表(民生委員等)、地域包括支援センター職員
市職員、有識者

〔開催時期〕 6回/年(奇数月)

4. 会議・研修等

- (1) 会議 よりみち支援会議、1回/月(第4月曜日)
虐待防止検討委員会 1回/3ヶ月(4月・7月・10月・1月)
身体拘束適正化検討委員会 1回/3ヶ月(4月・7月・10月・1月)
- (2) 外部研修 個別研修計画等を踏まえ、質の向上に向けた研修への参加
- (3) 内部研修 研修テーマに沿った研修を毎月実施
- (4) 防災計画 防災意識の高揚を図り、基本的な対応ができるよう実施する。

5. 営業日及び営業時間

- (1) ・登録 25 名 ・通い 15 名/日 ・宿泊 6 名/日
- (2) 営業日 365 日
- (3) 営業時間(24 時間) 通い 9:30～16:00 宿泊 16:00～9:30 訪問 24 時間

1. 事業所の重点目標

〔事業目標〕

定員に対する稼働率98%を目指す

＜具体的な取り組み＞

- ・入居者の日々の健康観察を行い、異常の早期発見、対応することで重症化を防ぐ。
- ・感染対策の職員教育に取り組むことで、感染防止の強化に努める。
- ・ヒヤリハットを増やし、事故防止に努めることで入居者の安定した生活に繋げる。
- ・空床が出た場合には、速やかに入所できるよう、定期的に申込者に意思や状況確認の連絡を入れる。

〔処遇目標〕

業務の効率をあげ、入居者に対して直接ケアの充実を図ることで生活の質を向上させる。

＜具体的な取り組み＞

- ・介護、接遇、感染、事故のマニュアルや一日の業務の流れを定期的に職員間で確認する。
- ・業務の優先順位を意識し、考えることで、間接業務を効率良く行う。
- ・現在、タブレットを活用しているが ICT 等の更なる活用を進めていく。

2. ケアの具体的取り組み内容

施設サービス計画書に基づき、以下のサービスを提供する。

- ① 生活支援 ②アクティビティ活動 ③より良いサービスの提供

3. 運営推進会議

地域や関係機関等に事業所の運営について理解を図り、外部との情報交換を図ることでサービスの質を確保する。

〔構成員〕 利用者家族代表、地域住民代表(民生委員等)、地域包括支援センター職員
市職員、有識者

〔開催時期〕 6回/年(奇数月)

4. 会議・研修等

- (1) 会議 ユニット会議;毎月開催(3ヶ月1回合同開催)
虐待防止対策委員会 1回/3ヶ月(4月・7月・10月・1月)
身体拘束適正化検討委員会 1回/3ヶ月(4月・7月・10月・1月)
- (2)外部研修 個別研修計画等を踏まえ、質の向上に向けた研修への参加
- (3)内部研修 研修テーマに沿った研修を毎月実施
- (4)防災訓練 防災意識の高揚を図り、基本的な対応ができるよう実施する。

よこすか めく森こども園拠点区分 資金収支当初予算書

令和6年4月1日

(単位:円)

勘定科目		当初予算額	前年度予算額	増減
事業活動による収支	収 入			
	0181 保育事業収入	168,674,000	173,985,000	-5,311,000
	0200 受取利息配当金収入	39,000	30,000	9,000
	0201 その他の収入	2,300,000	2,300,000	0
	事業活動収入計(1)	171,013,000	176,315,000	-5,302,000
	支 出			
	0129 人件費支出	124,884,000	117,667,000	7,217,000
	0130 事業費支出	19,755,000	20,306,000	-551,000
	0131 事務費支出	28,210,000	35,812,000	-7,602,000
	0138 その他の支出	2,250,000	2,250,000	0
	事業活動支出計(2)	175,099,000	176,035,000	-936,000
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	-4,086,000	280,000	-4,366,000
施設整備等による収支	収 入			
	施設整備等収入計(4)	0	0	0
	支 出			
	0144 固定資産取得支出	0	1,815,000	-1,815,000
	施設整備等支出計(5)	0	1,815,000	-1,815,000
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	0	-1,815,000	1,815,000
その他の活動による収支	収 入			
	0214 積立資産取崩収入	500,000	634,000	-134,000
	その他の活動による収入計(7)	500,000	634,000	-134,000
	支 出			
	0152 積立資産支出	414,000	414,000	0
	0160 拠点区分間繰入金支出	9,900,000	0	9,900,000
	その他の活動支出計(8)	10,314,000	414,000	9,900,000
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	-9,814,000	220,000	-10,034,000
予備費支出(10)		0	0	0
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		-13,900,000	-1,315,000	-12,585,000
前期末支払資金残高(12)		46,217,971	47,532,971	-1,315,000
当期末支払資金残高(11)+(12)		32,317,971	46,217,971	-13,900,000

1, 園の運営

開園より3年が経ち職員で話し合う中、これまでの重点目標が達成できたのではないかという結論になり、新たな重点目標を打ち出し進めていく。また昨年「整える」ということで進めたが、予想外の職員体制になってしまい思うように進めることができなかったため、重点目標の取り組みと共に三つの視点で取り組んでいく。

2, 取り組み

◇重点目標～好きな人と いっぱいお話ししよう～

「挨拶」あいさつってきもいいね

「会話」きいてもらえるってうれしいね

「絵本」いっしょにみるとたのしいね

をもとに各学年の取り組みを検討しながら進めていく。

◇「子育て支援の場」・保育参加・フリー参観・ほっと相談会・面談の実施 他

「地域との連携、地域への発信」・地域の人材の活用・地区懇談、園だより回覧 他

「生き生き働ける職場」・休憩時間の確保、定時退勤日の実施・業務を明確に可視化・
お互いが認め合える同僚性

3, 年間活動計画

・令和5年度の振り返りから計画を立て、大きく変わるのは「ぬくもり運動会」をこれまでの10月実施から6月実施とする。

4, 火災・地震・水害・消火訓練及び不審者対応訓練

・園児の安全確保と職員の危機管理の意識の向上を図りながら、災害の発生に備え、子どもたちが自分で自分の身を守る力を養うように訓練を実施していく。

5, 職員園務

・それぞれの職務を明確にし、スムーズな運営を行えるようにする。また、職員間の連携を深め開園から3年間で培ったそれぞれの力を結集していく。

6, 研修

・園内研修は新たな重点目標に伴う研修を行っていく。また引き続きマニュアルの見直しも行っていく。

・外部研修は個々の計画を立て質の向上に努めていく。

7, 幼稚園型一時預かり事業

・1号認定児の保護者の要望に対応し、預かり事業を行っていく。

8, 支援センター事業内容

・引き続き月1回の支援事業（ぬくもりの日）を行っていく。

おおぶち そよ風こども園拠点区分 資金収支当初予算書

令和 6年 4月 1日

(単位: 円)

勘 定 科 目		当初予算額	前年度予算額	増 減	
事業活動による収支	収 入	0181 保育事業収入	111,492,000	114,305,000	-2,813,000
		0198 借入金利息補助金収入	620,000	1,243,000	-623,000
		0200 受取利息配当金収入	30,000	20,000	10,000
		0201 その他の収入	1,430,000	1,410,000	20,000
		事業活動収入計(1)	113,572,000	116,978,000	-3,406,000
	支 出	0129 人件費支出	85,593,000	84,580,000	1,013,000
		0130 事業費支出	11,989,000	12,751,000	-762,000
		0131 事務費支出	22,990,000	28,011,000	-5,021,000
		0137 支払利息支出	620,000	1,244,000	-624,000
		0138 その他の支出	1,300,000	1,300,000	0
事業活動支出計(2)		122,492,000	127,886,000	-5,394,000	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		-8,920,000	-10,908,000	1,988,000	
施設整備等による収支	収 入	0204 施設整備等補助金収入	31,000,000	31,000,000	0
		施設整備等収入計(4)	31,000,000	31,000,000	0
	支 出	0143 設備資金借入金元金償還支出	31,000,000	31,000,000	0
		0144 固定資産取得支出	1,300,000	240,000	1,060,000
		施設整備等支出計(5)	32,300,000	31,240,000	1,060,000
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		-1,300,000	-240,000	-1,060,000	
その他の活動による収支	収 入	0214 積立資産取崩収入	1,000	600,000	-599,000
		0222 拠点区分間繰入金収入	9,900,000	0	9,900,000
		その他の活動による収入計(7)	9,901,000	600,000	9,301,000
	支 出	0152 積立資産支出	304,000	304,000	0
		その他の活動支出計(8)	304,000	304,000	0
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		9,597,000	296,000	9,301,000	
予備費支出(10)		0	0	0	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		-623,000	-10,852,000	10,229,000	
前期末支払資金残高(12)		6,233,732	17,085,732	-10,852,000	
当期末支払資金残高(11)+(12)		5,610,732	6,233,732	-623,000	

1、園の運営

認定こども園開園3年目を迎える中で、子どもの教育保育面の抑えを再確認し、保護者や地域との連携を図ると共に、今年度は危機管理面を強化していきたい。

2、目標、目標達成の取り組み

- ① 子どもや保護者との信頼関係を築いていくために、ICTによる園情報配信の工夫と対面での丁寧なコミュニケーションをしていく。
- ② 専門機関との連携においては、療育機関の「小集団めろん」を月2回開所してもらい、療育の充実を図る。
- ③ 職員の資質向上と働きやすい職場づくりのために、園内研修を職員目線からスタートし、職員同士が認め合う風土づくりをしていく。
- ④ 危機管理面で防災の見直しを行うため、防災・減災教育等の専門家のアドバイスを心得て実施訓練に繋げていく。

3、年間活動計画

- ・幼稚園行事の見直しを行う。(いちご狩り・陶芸教室)
- ・入園式、保護者会総会、運動会、発表会、保育参加、参観会、卒園式などの保護者参加行事は、活動内容を検討して計画していく。
- ・学校教育委員会から示されている家庭教育学級を引き続き行う。

4、火災・地震・消火訓練及び不審者対応訓練実施報告

『園児の安全確保』『職員が危機管理意識と責任・自覚を持ち、適切な判断のもと迅速な行動をとる』という目的のもと、避難訓練においては、月1回実施訓練日設定なしで行っていく。

5、職員園務

- ・職員一人一人がキャリアに応じた職務に責任をもち、円滑な園運営ができるようにしていく
- ・報連相を重視し、職員間で共通理解を図り連携を強化していく。

6、研修

- ・外部研修（オンライン研修）は可能な範囲で参加していく
- ・内部研修は「本園の理念・方針・目標の共通理解」「保育の標準的な実施方法」「危機管理マニュアル」「不適切な保育への対応等」の再確認を行い、全職員で共通理解をしていく。

7、一時預かり事業

- ・地域の子育て支援事業の需要になるべく応じることができるよう職員体制を整えていく。

8、支援センター事業内容

- ・園が地域の拠点となって、安心して過ごせる環境づくり、気軽に相談が出来るよう体制づくりをしていく。